2018年11月期第2四半期

決算説明会資料

2018年7月19日(木)

(東証第1部:8095)

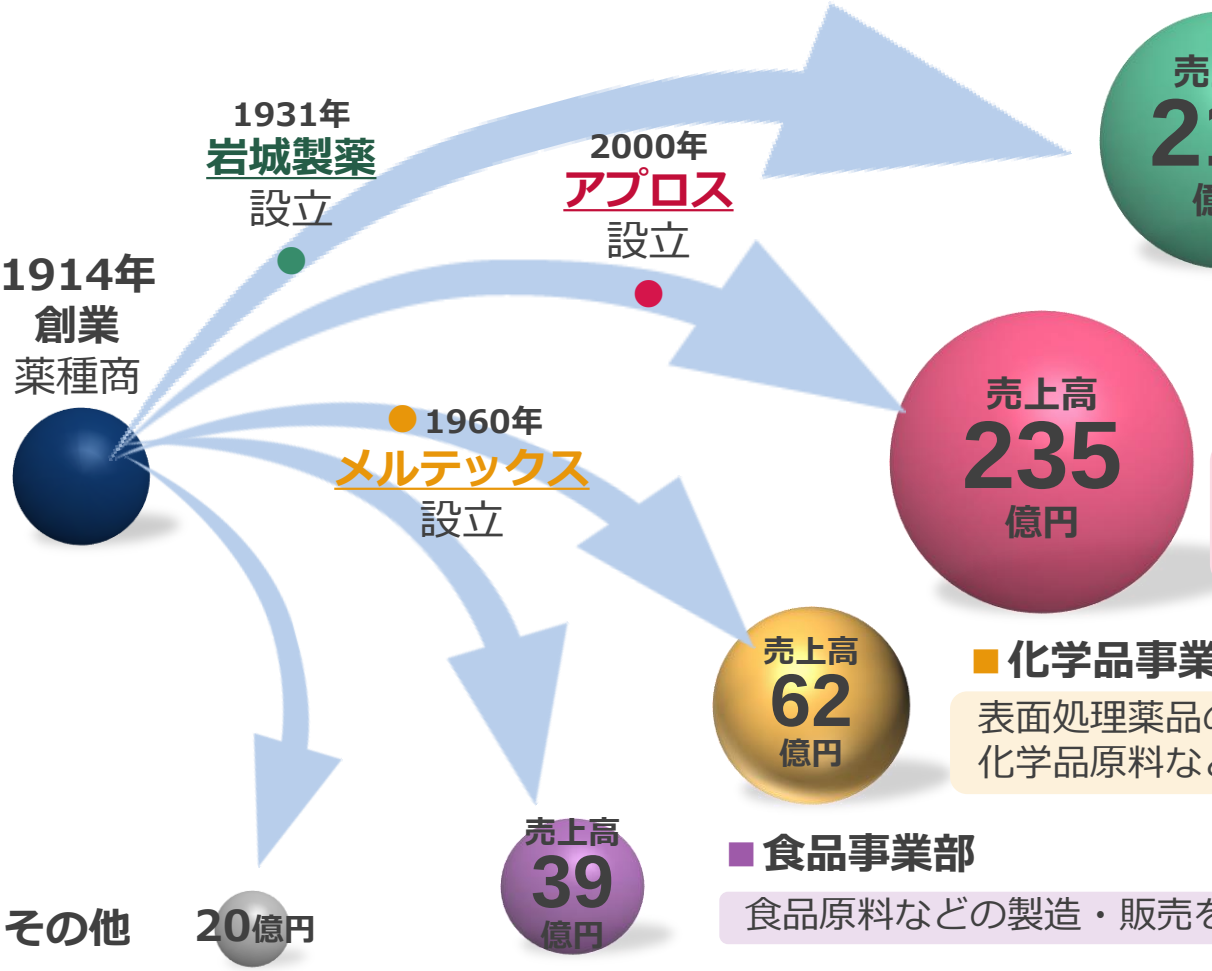
イワキ株式会社

©2018 IWAKI&CO.,LTD. All Rights Reserved.

当社グループのご紹介

イワキグループのご紹介

イワキグループは、医薬品を中心としたヘルスケア・ファインケミカルの企業集団です。



■医薬・FC事業部

医薬品原料・医薬品の
開発・製造から販売、また臨床
検査薬などの販売も行う。

■HBC(Health & Beauty Care)事業部

一般医薬品、化粧品原料・
機能性食品原料の販売、化粧品の通信販売
およびOEMなどを行う。

■化学品事業部

表面処理薬品の製造・販売、
化学品原料などの販売を行う。

■食品事業部

食品原料などの製造・販売を行う。

■その他

動物用医薬品の卸売を行う。

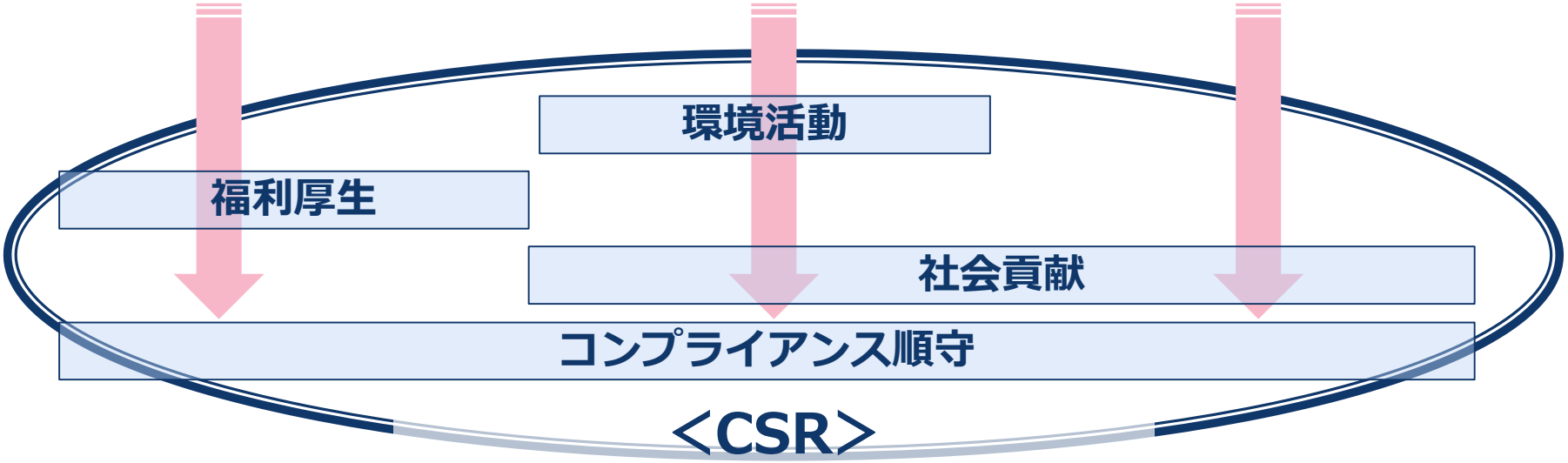
※売上高は2017年11月期通期実績ベース

イワキグループのコアバリュー

イワキグループでは、中長期ビジョンに「SH+E+EG」のコアバリューを定めています。
今期より「グループビジョン推進室」を新設し、より一層の活動の充実をはかっています。

SH ＋ E ＋ EG

Safety and Health　Environment　Ethics and Goodwill



⇒**グループビジョン推進室**でフォロー

グループビジョン推進室の取り組み

CSR等への多様な「ビジョン」へアプローチを行っています。

リンクし合う様々な
「ビジョン」の推進役

グループビジョン推進室

- 子育て・介護世代支援 — 進捗中
- テレワーク — 進捗中
- シニアの活用 — 企画中
- 障がい者雇用の促進 — 企画中
- 福利厚生の改善 — 進捗中
- 社員教育 — 進捗中
- 3R (Reduce, Reuse, Recycle) — 企画中

etc.…

本日のご説明内容

Ⅰ.決算概況

Ⅱ.主な取り組み

Ⅲ.今後の見通し

本日のご説明内容

Ⅰ.決算概況

Ⅱ.主な取り組み

Ⅲ.今後の見通し

決算概況(2018年11月期第2四半期)

第2四半期は、当初の業績予想を大きく上回り前年同期比で増収・増益で着地。
前年同期の過去最高営業益を更新いたしました。

	実績	前年同期差額	前年同期増減率
売上高	290億円	+9.8億円	+3.5%
営業利益	8.5億円	+0.3億円	+3.7%
経常利益	9.1億円	+0.0億円	+0.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	6.1億円	△2.5億円	△28.8%

■HBC事業　営業利益増加　+0.7億円

■特別利益　前期は投資有価証券売却益計上　△2.2億円

※前年同期比

セグメント別業績

主要４セグメントで増収となりました。

セグメント	売上高		営業利益	
	実績	前年同期差額	実績	前年同期差額
医薬・FC事業	106億円	+0.3億円	7.7億円	△0.3億円
HBC事業	121億円	+7.4億円	0.8億円	+0.7億円
化学品事業	30億円	+0.2億円	△0.0億円	+0.1億円
食品事業	21億円	+1.7億円	△0.1億円	△0.1億円
その他	10億円	+0.2億円	0.2億円	△0.1億円

セグメント別売上構成(2018年11月期第2四半期)

売上高構成比	原材料製造	流通	製品製造	卸売	小売	計（事業別）
医薬・FC事業	原料薬品BU 18億円	59億円	医薬品BU 32億円	医療機器BU※ 1億円		106億円 37%
HBC事業		HBC原料BU 52億円		ファルマネットBU 58億円	化粧品通販BU※ 12億円	121億円 42%
化学品事業	表面処理薬品BU 21億円 表面処理設備BU 7億円	スペシャリティマテリアルBU 3億円				30億円 10%
食品事業	食品BU 2億円	19億円				21億円 7%
その他				動物薬卸 10億円		10億円 3%
計（サプライチェーン別）	48億円 16%	133億円 46%	32億円 11%	70億円 24%	12億円 4%	290億円 100%

※連結消去の記載を省略しているため合計が合わない場合があります。
2018年11期より一部のBUの見直しを実施。新基準に組み換え後の数値を記載。

セグメント別概況詳細

セグメント分類		当期の概況	
医薬品・FC	原料薬品BU	✓ 新薬メーカー向け中間体の新規採用も、ジェネリック医薬品メーカー向け原料売上は低調 ✓ 一般用医薬品向け解熱鎮痛剤とビタミン剤原料や米国向け主体の血管収縮剤原料売上は好調 ✓ **電子・機能性材料（有機EL素材）販売の拡大**などにより利益が大幅に増加	
	医薬品BU	✓ 医療用医薬品は主力の外皮用剤が好調に推移。特に主力品の売上が大幅伸長。 ✓ **基礎的医薬品指定により、薬価改定影響をカバーし、主力品の伸びと合わせ大幅伸長**	
	医療機器BU	✓ 前期に上市した乳児用の体動モニター「インファントミオ」が保育園市場で好調に推移。 ✓ 医療機器販売は前年同期下振れも消耗品関連では堅調に伸長。	
HBC	HBC原料BU	✓ 機能性食品原料分野では、主力顧客での販売増加及び新規受注獲得により堅調。 ✓ 化粧品原料分野では、一部原料の供給制限があるも国内需要・**インバウンド**需要により堅調。	
	ファルマネットBU	✓ **インバウンド**需要・**海外向け**販売の好影響、既存取引の拡大により全体的に好調。	
	化粧品通販BU	✓ 新規・既存顧客向けプロモーションが計画を若干下回り、売上は前年同期比で横ばい ✓ 広告宣伝及び販売促進の効率的な運用により営業利益は好調	
化学品	表面処理薬品BU	✓ **第3四半期に日立化成(株)よりプリント配線板用薬品事業の譲受を予定** ✓ 半導体関連薬品の販売が進むも、海外大型新規販売遅延及び営業人材強化による固定費増加により営業損失	
	スペシャリティマテリアルBU	✓ 利益率の高い部品・メンテナンス販売に注力し、全体最適を目的とした最適地生産強化により、装置受注延期や中止等厳しい状況があるも営業利益は好調に推移	
	表面処理設備BU		
食品	食品BU	✓ 新規受注の獲得、既存原料の拡販、健康志向食品向け原料伸長により売上は堅調に推移	

本日のご説明内容

Ⅰ.決算概況

Ⅱ.主な取り組み

Ⅲ.今後の見通し

〇〇のイワキ

既存の事業領域はいずれも堅調に推移し、さらなる成長への準備を整えています。
様々な事業を行うイワキグループを、「〇〇のイワキ」として三つに分類してご説明いたします。

トピック1

皮膚
のイワキ

医薬・FC事業　医薬品BU

✓ 主力品の好調・岩城製薬「デルモゾールG」の
基礎的医薬品指定により大幅伸長

トピック2

電子
デバイス
のイワキ

医薬・FC事業　原料薬品BU

✓ **電子・機能性材料（有機EL素材）販売の拡大**
などにより利益が大幅に増加

化学品事業　表面処理薬品BU

✓ **日立化成株式会社のプリント配線板用薬品事業の譲受**
を決定し新たな市場開拓を準備

トピック3

イン/アウト
バウンド
のイワキ

HBC事業　ﾌｧﾙﾏﾈｯﾄBU

✓ **インバウンド**需要と**海外**向け販売の好影響、既存主要顧客との取引の順調な推移により全体的に**好調に推移**

皮膚のイワキ

トピック1

イワキグループ全体で約16%の皮膚関連の事業を行っています。

分類		概算実績 (当第2四半期累計)	概要
医薬・FC 医薬品BU	医療用医薬品	岩城製薬 20億円 ※受託製造を含む	トピック1-1 ✓ ジェネリック医薬品の製造販売 ✓ アトピー性皮膚炎治療薬、抗真菌剤など
HBC 化粧品通販BU	化粧品	アプロス 12億円	✓ スキンケア化粧品の製造・販売
HBC HBC原料BU	化粧品原料	イワキ 9億円	✓ 化粧品向けの原料の卸売 ✓ 基材(1,3-ブチレングリコールなど)
医薬・FC 医薬品BU	ドクターズコスメ	岩城製薬 4億円	✓ 株式会社資生堂と提携のうえ販売 ✓ 医療機関経由で販売 ✓ NAVISION／NAVISION DRシリーズ

製品例

デルモゾールG軟膏

シルキーカバー

オリーブオイル

NAVISION

トピック1-1

皮膚のイワキ 医薬・FC事業

岩城製薬における収益の拡大

トピック1

4月の薬価改定における製品の基礎的医薬品指定により、収益が大幅に拡大しました。

■薬価改定による影響【医薬品BU】

✓ 4月の薬価改定によるマイナス影響がある中、岩城製薬製品「**デルモゾール®G**」の**基礎的医薬品指定**により、利益が大幅に拡大。

▼

供給を求められる医薬品であっても、薬価収載から長い期間が経過した医薬品は、薬価改定により採算が低下してしまう。
臨床上の必要性が高く、将来にわたり継続的に安定供給が必要だと認められた医薬品について、薬価を維持する制度。

電子デバイスのイワキ

トピック2

電子デバイス関連分野において、世界シェアNo.1製品を含む複数の製品を取り扱っています。

医薬・FC原料薬品BU

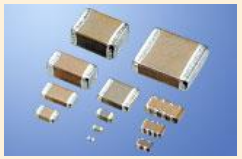
■電子・機能性材料 岩城製薬

スマートフォン向けディスプレイ材料の販売が拡大。

メルテックス

■電子部品（チップ部品） 車載向けコンデンサ中心に需要増

✓ **世界シェアNO.1**の中性すずめっき薬品「**メルプレートSN**」



積層セラミックコンデンサ

化学品事業

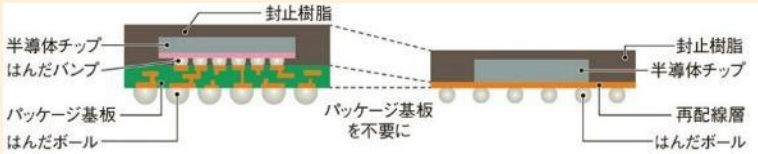
表面処理薬品BU

■半導体 2018年の世界半導体市場、2年連続の2桁成長

✓ 採用が進む「**UBM** (Under Bump Metal) **プロセス**」

✓ デファクトスタンダードを目指し開発中の「**Fan-Out WLP** (Wafer Level Package) **/PLP** (Panel Level Package) **プロセス**」

従来技術 (フリップチップBGA) ▶ 新技術 (Fan-Out WLP)



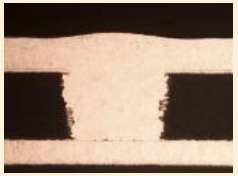
※出典：日経テクノロジーonline

■プリント配線板

トピック 2-1

✓ **事業譲受によるラインアップ拡充「メルプレートH7 プロセス」**

✓ 低膜厚でのフィリング性能が優れる「**ルーセントカパーSVF**」



ルーセントカパーSVF処理断面

トピック2-1

電子デバイスのイワキ　化学品事業

事業譲受による表面処理薬品BUの強化

トピック2

従来から協業体制である日立化成株式会社(以下、日立化成)より「プリント配線板用薬品事業」を譲受いたしました。

2014年

- 日立化成と薬品事業において協働体制を開始

2018年6月

- **日立化成から「プリント配線板用薬品事業」を譲受**
- 配線板・半導体パッケージ用めっき薬品と表面処理剤の**製品ラインアップが一層拡充**(水平無電解銅めっき　メルプレートH7 プロセスなど)

これから

- これまで以上に周辺材料と各種プロセス製品との最適化を推進
- 表面処理薬品の**トータルソリューションプロバイダー**としての機能を強化
- 2025年に**数十億円規模**を目指す

アジア各国へ販売を展開

※本件は、メルテックスのホームページにて2018年3月28日に開示しました。

イン/アウトバウンドのイワキ HBC事業

トピック3

HBC事業部では、ファルマネットBUを中心にすべてのBUにおいて多様な角度から、海外需要の取り込みにアプローチしています。

HBC事業 サプライチェーン

原材料製造

流通 — HBC原料BU

製品製造

卸売 — ファルマネットBU

小売 — 化粧品通販BU

■HBC原料BU

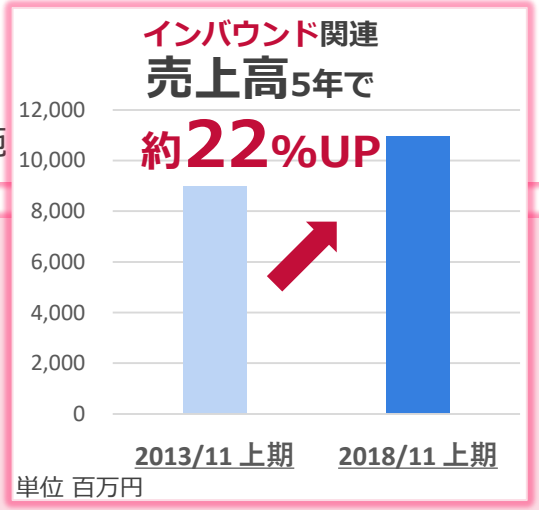
✓ 海外向けOEMの強化

既存顧客に対する海外向け製品に関する**OEM製品の提案**を実施

■ファルマネットBU

✓ 量販店に対する営業強化

量販店における**インバウンド**需要増加、出店強化に対しフォローを強化すべく、営業担当増員やエリア商談を増加させることにより好調な売上を継続。



✓ アウトバウンド需要の新規取り込み

ベトナム・タイほかアジア圏につき、越境ECなどのアウトバウンド向け販売を一層強化。

■化粧品通販BU

✓ 自社品（化粧品）の海外販売の検討

既に国内にて市場を得ているアプロス**化粧品の海外顧客向け販売**を検討中。

本日のご説明内容

Ⅰ.決算概況

Ⅱ.主な取り組み

Ⅲ.今後の見通し

通期連結業績の見通し

2018年11月期は、創業来最高額の営業利益達成を、二期連続で目指します。

	見通し※	前期増減額	前期増減率
売上高	590億円	+16.1億円	+2.8%
営業利益	16.0億円	+0.3億円	+1.8%
経常利益	17.2億円	△0.6億円	△3.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	11.8億円	△0.6億円	△5.0%
ROIC	5.5%	(実績)5.4%	-%

※2018年5月25日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて開示しました。

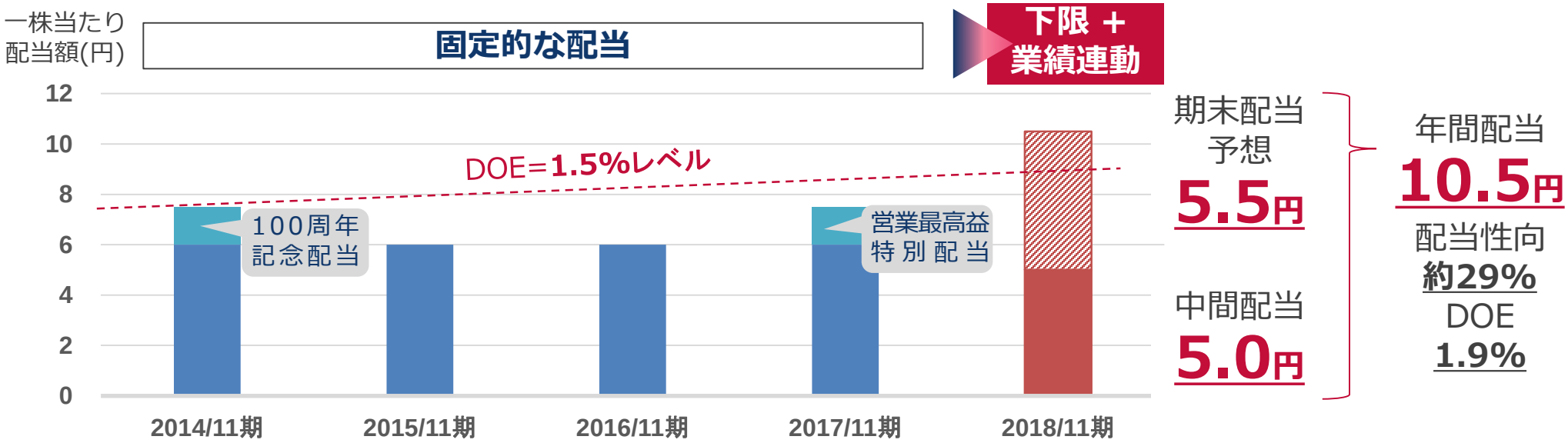
配当方針

従来の固定的な配当から、下限を持った業績連動型へ変更いたします。

今後の配当方針

純資産配当率 (DOE) **1.5%** 以上

連結配当性向 **30%** 目途



※2018年７月12日付「配当方針の変更及び配当予想の修正（中間配当の実施）に関するお知らせ」にて開示しました。

- 本資料の予想は、発表日現在において入手可能な情報及び一般的に認識されている経済・社会等の情勢に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後の経営環境の変化等様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれています

問い合わせ窓口
イワキ株式会社
管理本部　経営管理部
Tel:03-3279-0564